

(様式 1)

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年2月27日
江別市立江別第一中学校

1 本校の経営の重点とスローガン

- ◆**重点** : 共に「生きる」力を育もう
～強く、美しく、夢を持って～
- ◆**スローガン** : 声に出そう、心を開こう！
- ①声に出そう
- ・自分の意見を表現すること
～学校経営への参画意識を持つ教職員集団（働き方改革も含む）
～「主体的・対話的で深い学び」…判断力、表現力の育成
～考え、議論する道徳
 - ・元気なあいさつができること
～あいさつと笑顔にあふれる学校の創造
- ②心を開こう
- ・他人の意見を受け止めること
～「主体的・対話的で深い学び」…思考力、判断力の育成
～物事を多面的、多角的に考える力の育成（道徳）
 - ・異質なものへの寛容性を持つこと
～いじめのない学校の創造

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	①学校教育目標の実現に向けた、全教職員による学校運営	B	<ul style="list-style-type: none"> ・企画委員会で月ごとの重点を確認し、学年・分掌のやるべき事を明確にし、組織的に経営にあたる。 ・経営方針の具現化をはかり、組織として動き、目標やゴールを教職員が共有する。そのために学年主任等を含め全教職員に対し、学校経営参画意識を高めるように、職員会議や企画委員会で指導・助言にあたる。 ・保護者アンケート、生徒アンケートの結果を分析し、学校改善に努める。 ・教員の職務遂行意欲の形成をはかる。特に学校改善は授業改善であることを確認し、授業改善に向けて、研究部を中心に、真摯に取り組を進める。 ・人事評価シートを有効に活用し、面談を実施する。 	A	A
	②地域・保護者と連携を重視し、信頼関係に基づく教育活動の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート以外にも、保護者、地域からの要望等を職員会議で共通理解を図り、応えられる内容についてはすぐに対応する。 ・地域の行事への参加要請があった場合は、できる限り要請に応じて対応する。 ・行事、学校公開週間、PTA活動、夜間巡視、資源回収など、学校での取り組みについて充実を図るため、より一層地域や保護者との関係を強めていく。 ・地域に根ざした学校であることを認識し、学校支援地域本部との連携を図り、地域の方の支援を受 	A	A

		<ul style="list-style-type: none"> けながら学校教育に当たる。 保護者、生徒の意見が十分に反映されるアンケートの実施。 開かれた学校を目指し、年3度の学校公開週間の実施や情報を積極的に公開する。 			
	③教師自ら厳しく律する服務規律の徹底	A	<ul style="list-style-type: none"> 各種資料を使い研修を実施する。 計画的・継続的に事故、違反等について指導に当たる。(全体、個別) 日報を活用し、事故速報などについて速やかに情報発信と注意喚起を行っている。また、交通事故、違反については「交通安全啓発ステッカー」を靴箱に掲示するなど、意識を高めた。 生徒指導や部活指導など複数体制で行い、体罰等事故の未然防止に努めている。 金銭に係わる部分については何度か監査をするとともに、現金は複数体制で扱うようにしている。 「体罰、生徒に対する言葉遣い」は日頃から必ず話題にし、意識を高め、不適切な部分は、すぐに指導に当たる。 コンプライアンスの確立に向け、定期的に研修を行うなど、啓蒙活動を促進する。 	A	A
教育課程学習指導	①知・徳・体のバランスのとれた教育課程の編成と年間計画に基づいた授業時数の確保	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程や年間指導計画は、適切に実施されているか、確認作業を行っている。 全国学力学習状況調査、標準学力検査、運動能力テスト、各種アンケートの結果を分析し、生徒の実態に合わせた取り組みを行う。 授業改善を進め、ICTの活用を積極的に行い、基礎学力の定着を図る取組を行う。 体力の向上については、体育系の部活に入っていない生徒への運動の啓発を行う。 放課後学習の実施、夏季休業中、冬季休業中の学習会を実施する。 本時の目標とまとめを意識した授業の取り組みを行う。 体育の授業で補強運動を実施する。 基礎トレーニングを重視した部活動の取組を行う。 体力向上を意識した運動会や球技大会を実施する。 外部指導者を呼び、全校道徳を開き、保護者にも参加してもらう。 道徳の時間だけではなくあらゆる場面で豊かな心を育成するように全教職員が取り組む。 外部指導者を呼んで道徳の研修を実施したり、道徳の研修会に積極的に参加し、還流を図り、道徳の授業の充実をはかる。 	A	A
	②確かな学力が身につく授業づくりの実践	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究部を中心として、互いに高めあう研究・研修活動を継続し、個々の授業力の向上に努め、授業改善を行う。 生徒アンケートを行い、授業改善に努める。 学習指導要領改訂に準拠した教育課程の編成を整備する。 全国学力学習状況調査を始め、標準学力テストなどを分析し、生徒の実態に合わせた学習指導を進 	A	A

		める <ul style="list-style-type: none"> ・教室が学習の場にふさわしい環境にすると共に、廊下等に生徒の学習の成果を掲示し、お互いに刺激し合えるようにしている。 ・生徒会の学習委員会の活動で生徒自ら学習意欲を高める取組を進める。 ・授業で目標の提示とまとめを必ず行う。 ・家庭学習の習慣化を図るため、教科担任がノート点検を行っている。 ・学習規律や生活規律については4月に指導の徹底をはかり、月ごとに再確認をして、指導にあたっている。 ・地域人材、加配教員の適切な活用をはかり、学習効果を高めている。 ・ICTの活用を積極的に行う。 		
	③個に応じた指導方法の工夫	B <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を中心に効果的なTT指導、少人数指導、習熟度別指導のあり方を協議する。(英、数) ・長期休業中の学習会、放課後学習会を生徒の実態にあわせ、取り組む。 ・生徒一人一人の家庭学習の状況を確認し、指導の必要な生徒には学習の仕方のアドバイスを行う。 ・授業で配慮を必要とする生徒の対応について常に、共通理解を図り、教科担任と学級担任の連携を深める。また、全教職員が基礎的知識や技能を習得するように取り組んでいる。 	A	A
	④豊かな心と思いやりを育てる道徳教育の実践	B <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師を中心に生徒の発達段階や学習時期に応じた魅力的な道徳教材の開発・収集と実践資料の整理・活用をすすめる。 ・全校道徳の充実を図ると共に、保護者も巻き込んだ道徳の実践を行う。 ・行事を通して心豊かな生徒の育成に努めている。 ・道徳の教科化に向けて、外部講師を呼んで模擬授業を行ったり、各種研修会に参加し、全教職員で道徳の教科化に向けた準備を進めている。 ・本校の生徒の実態に合わせ、積極的に「私たちの道徳」の活用を取り入れた道徳の指導計画を作成する。 ・情報モラルについての講演を実施し、指導の強化を図る。 	A	A
生徒指導	①共通理解・共通行動を基本とした指導体制の確立	A <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導では「ほう・れん・そう」を全員で意識し取組を進める。 ・生徒指導部のリーダーシップのもと、迅速な情報伝達と共通行動を徹底し、指導にあたる。 ・問題によっては、外部機関や保護者との連携を図り、対応する。 	A	A
	②基本的生活習慣の定着を図るための地域・保護者との連携	B <ul style="list-style-type: none"> ・学校の指導方針について、PTAと連携して保護者への協力要請を行う。 ・保護者向けの講演会や学校だよりで情報を発信する。 ・保護者や地域の苦情については、迅速に対応し、状況に応じた指導の徹底をはかる。 	A	A

			<ul style="list-style-type: none"> ・苦情の情報については、全職員に伝え、今後の生徒指導に役立てる。 ・地域・保護者・教職員での巡視活動の活性化（夏休みや文化祭時期の夜間巡視） 		
	③生徒理解に基づいた教育相談の充実と関係機関との連携	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な教育相談や日常の相談活動を充実し、生徒の内面に迫る指導を重視し、自己有用感、自己肯定感を高める指導を行う。 ・休み時間や昼休みに積極的に生徒とかかわり、会話を通じて生徒理解に努める。 ・家庭との連携を学年を中心に行い、担任だけではなく副担任も関わり、複数体制で行う。 ・教職員間の連携を密にし生徒の変容の情報を共有し、学校と家庭の連携を図り、適切な対応をとる。 ・各機関との連携を積極的に行い、より専門的な対応が学校でもできるようにする。 	A	A
	④学校におけるいじめの対処方針や指導計画など、迅速に対応する体制の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間等に教職員による生徒とのふれ合いを重視した巡視活動を強化する。 ・「生徒のいるところには先生がいる」ということを基本に動き、すきを作らない体制を確立する。 ・いじめは学年全体、学校全体の対応としておさえ、全教職員がいじめゼロに向けて取り組む。 ・保護者へ未然防止の観点から情報の提供を行う。 ・いじめの早期発見につとめ、教職員間の情報共有を積極的に行う。 	A	A
特別活動など	①委員会活動の活性化を図る取組	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の指導計画に基づき、各活動のねらいや計画をより明確にしながらすすめていく。 ・自主的な活動の機会を多く作り、自己有用感や帰属意識を高めるために教職員全員でサポートする。 	A	A
	②達成感・成就感を得られる生徒会・学級活動の取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒を主人公にした取り組みを行い、生徒の発想を生かした創意工夫のある活動をサポートする。 ・委員会活動の活動時間を保障しつつ、部活動に所属している生徒が両立できるように配慮する。 ・地域から要請があった場合は、できるだけ地域の活動に参加し、地域に帰属意識を持ち、成就感を持ってもらう。 	A	A
	③粘り強く努力する生徒の育成と意欲を引き出す取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育で体験活動を重視して楽しさや厳しさを体感し、3年間を見通した系統性のある教育活動となるよう改善を図り、生徒に意識化させる。 ・学習活動や生徒会活動、行事などあらゆる場面で生徒とのより良い人間関係を構築して指導する。 ・生徒一人ひとりの良いところを伸ばす指導を心懸ける。 ・定期的な教育相談や日常の相談活動を充実し、生徒の内面に迫る指導を重視し、自己有用感、自己肯定感を高める指導を行う。 	A	A
特別支援	①生徒個々の情報の共有化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネータを中心として、生徒の実態を踏まえ、生徒一人ひとりの困り感に応じた具体的な支援を検討し、学校全体で対応する。 ・毎月の学年部会や職員会議で、生徒の情報交流を行い、支援が必要な生徒の対応について協議し、 	A	A

教育			<p>細かな指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会を開催し、個別の指導計画等に基づいた指導を行う。 ・教職員の共通理解を図り、生徒の情報を共有する。 ・支援が必要な生徒への対応の研修を特別支援コーディネーターが中心となり行い、全教職員が基礎的知識や技能を習得するように取り組む。 ・小中高での連携を強化し、指導の連続性が保たれるようにする。 		
	②家庭との連携によるきめ細かな指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的な視点にたった教育相談と進路指導を充実させ、家庭との連携を高める。 ・電話で話をするべきか、家庭訪問をして話すべきか、見極め、家庭に寄り添った対応をとる。 ・生徒や保護者の「困り感」について共有し、学校としてできることを最大限サポートする。 ・状況に応じて、関係機関と連携を図りながら対応していく。 	B	A
その他	①薬物・携帯電話など、今日的課題に対する指導	A	<ul style="list-style-type: none"> ・非行事故や問題行動に関する情報を提供し、職員の危機意識を高め指導力の向上を図る。 ・ネットパトロールの結果を受けて、問題が大きくなる前に指導に入る。 ・生徒指導では「ほう・れん・そう」を全員で意識し取組を進め、後手にならないように積極的な生徒指導にあたる。 ・外部指導者を呼んで生徒に指導した。 (ネットトラブル、薬物乱用、交通安全等) ・生徒指導の問題では保護者の協力を得ながら対応する。 ・保護者向けの啓発講演会等の情報を積極的に発信するなど、保護者との連携をはかり、家庭を巻き込んだ指導を行う。 	A	A
	②不登校の減少に向けての取組	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問を積極的におこない、家庭との連携を図る。 ・それぞれの状況について、全体で共有する。 ・他機関のプログラムに参加している生徒の様子を確認しながら、登校を促すための連携を図る。 ・不登校については、学年全体で対応し、保護者やスクールカウンセラーとの連携を図っている。 ・市教委の不登校生徒対応（スポットケア）と連携をはかり、家庭訪問等を実施し、保護者や生徒との関係づくりを進めている。 ・家庭の願いで学校としてできることは積極的に支援していく。 	A	A
<p>〔評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校運営委員の意見〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の教育活動の様子が良く理解できた。実態把握および自己評価・改善策は適切であった。 ・昨今の情勢からも、地域、家庭との連携は、より丁寧にしていくことが重要である。 					

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない